

ジャーナリスト

日本ジャーナリスト会議 (JCJ)
〒101-0064 東京都千代田区猿樂町1-4-8 松村ビル4F
電話 03-3291-6475 FAX 03-3291-6478
メールアドレス: jcyj@ky3web.ne.jp URL http://www.jcj.gr.jp
年間購読料 3,000円 (送料込み) 振替・00190-2-76501



2011. 5. 25

《レベル7の衝撃》小出五郎氏が講演

連続講座 第4回

全体像 伝えぬテレビ 原発ファミリー、結束緩まず



撮影＝河合良一

東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故を受けて、日本ジャーナリスト会議は4月26日、東京で「福島原発震災《レベル7》の衝撃」テレビ講演会を開催した。JCJ緊急連続講演会の一環で今回は4回目。約90人が会場を埋めた。

小出氏は学生時代に放射線生物学を学び、NHK入局後の1973年には科学番組のディレクターとして、当時建設中だった静岡県浜岡原発の地震対策などを取材。「耐震設計」と題するドキュメントを制作した。講演ではその映像を披

講演する小出五郎氏（4月26日）

露した。原子炉建屋の内部をくねくねと複雑にめぐる配管の様子や、福島原発で一部破損が報じられた圧力抑制室の巨大な姿が画面いっぱい広がる。インタビューに「安全です」と答える電力会社の担当者。福島原発事故後にこの映像を見る「安全神話」のむなしさを思わずにはいられない。事故をめぐるテレビ報道については、映像が伝える無言のメッセージと、当局発表に頼る報道内容との乖離が、多くの視聴者に「本当はどうなのか？」という疑問を広げたと分析した。

「事故の見通しや展望、最悪のケースではこうなるが現在はこうだ」といった全体像を伝えることがなく、断片的な現状説明だけに終始したと一連のテレビ報道を総括。観測される放射線については「健康に影響がない」と結論だけ伝え、その根拠（例えば放射線防護委員会の基準など）を示さないことが不安を増幅させたとした。さら

は、建屋が壊れて誰もが「使いものにならない」と思うようなひどい姿。しかし、当初は廃炉を指し、信頼を得られていない問題を挙げた。原発は1950年代から①地方政治家を含む政界②官庁③電力会社やメーカー④労組⑤原発擁護の報道機関幹部やジャーナリスト⑥学者たち、という五つの関係者が「原子力ファミリー」のペンタゴンを形成してきたと指摘。「仲間意識が強く、原発批判を許さない。事故があっても、いつも過小評価して見せる」のが原発ファミリーで、数千億円規模のお金が接着剤となっていてその構造

を、事後も緩んでいないと警戒を呼びかけた。現在の民主党政権も昨年作成したエネルギー基本計画に基づき、2030年までに14基の原発を新たに作る方針だ。明確な原発批判勢力が政権内ない状況を直視する必要性も指摘した。

発表に紛れ込む官邸情報 気象庁の歴史に汚点

読者の誤解を避ける表現を

東日本大震災の発生から10日後。気象庁が出したある発表文の中の一節に、強い違和感を覚えた。「雨が降っても、健康に影響はありません」。

福島第一原発の事故を受け、気象庁は原発付近の気象情報を毎日発表。周辺地域の風や雨などを予測してきた。その発表文の中で、翌日は雨が降

りそうだと書いた後に、この極めて異質な一節が紛れ込んでいたのだ。直接の担当である福島地方気象台に聞くと「本庁からの指示です」。気象庁本庁の企画課は「政府の現地災害対策本部から、こういう文言を入れるよう要望があった」と説明し、健康に影響ないと断言した根拠を聞くと「首相官邸のホームページ

と見て、官邸HPを見ると「東北、関東の方へ雨も降っても、健康に影響はありません。ご安心ください」などである。早速、この発表文を問題視する記事を書いた。

後日、気象庁の羽鳥光彦長官は記者会見で「健康への影響はわれわれの所掌外だが、政府の一員として協力していく立場

にある。（本当に影響ないかどうか）検証する力は全く持っていない。政府の見解に従ってやっていく」と述べた。つまり、科学的根拠のないことを、気象情報として発表してしまった。大震災と原発事故に関する日々さまざまな動き、無数の情報と多くの混乱の中で埋もれてしまった感はあるが、国民の命を守るという重い使命を負った気象庁の歴史に汚点を残したと思う。

もう一点、元気象庁長の爆発を避けるために中

にある。（本当に影響ないかどうか）検証する力は全く持っていない。政府の見解に従ってやっていく」と述べた。つまり、科学的根拠のないことを、気象情報として発表してしまった。大震災と原発事故に関する日々さまざまな動き、無数の情報と多くの混乱の中で埋もれてしまった感はあるが、国民の命を守るという重い使命を負った気象庁の歴史に汚点を残したと思う。

それとは別に、原子炉の爆発を避けるために中

宇佐見昭彦

「3・11」から2カ月

「アメリカ流正義」江草普二

コミックJCJ



「アメリカ流正義」江草普二

6月集会では、塩崎賢明・神戸大学教授に基調講演「阪神・淡路大震災の教訓から何を学ぶか」がある。

今回の集いは、ジャーナリズムの立ち位置、つまり我々は何をなすべきか？を自ら問う場でもある。

「3・11」から2カ月

「3・11」から2カ月

＜6月集会＞
17日に開催
テーマは「生活再建と復興」
塩崎賢明教授が基調講演

「3・11」から2カ月

「3・11」から2カ月

神奈川支部

映像を通じて考える放射能汚染 核と人類は共存できない



ネット中継もされた神奈川支部の集会 撮影=清水雅彦

「安全宣言」に警鐘

原発事故で広河隆一氏講演

会場満杯、1000人以上入れず

大震災による福島原発事故が予断を許さない状況のなか、4月30日、東京・新宿区内で緊急シンポジウム「原発事故とメディア」が開催された。メディア総合研究所と市民団体「開かれたNHK」をめぐり全国連絡会の共催によるもので、会場

には定員を大幅に超える150名以上が詰めかけたうえ、さらに100名以上の参加希望者に対して入場をお断りする事態となった。当日のようはインターネット中継も行われた。

基調講演に立ったのはフォトジャーナリストで

桜井均氏ら危険性を訴え

JCJ神奈川支部は4月18日、神奈川県民センターで、緊急集会「原発事故と放射能汚染」映像を通じて考える」を開いた。

元NHKプロデューサー

「の桜井均氏、映像ドキュメントの会の荒川俊児氏が制作した映像作品を映写し、その後、討論した。

視聴した映像は、桜井均氏の制作した「ZONE

ながら報告した。その中で、「放射能はチェルノブイリの10分の1だから健康に影響ない、などと説明されているが、同事故では福島原発の500個分の放射能が放出されたと言われ、その10分の1でも50個分になる」などとして、政府やメディアによる「安全」宣伝一辺倒に警鐘を鳴らした。

続いて行われたパネルディスカッションでは、砂川浩慶・立教大学准教授の進行で、3人のパネ

リストが議論を行った。元東芝の原子炉格納容器技術者・後藤政志氏は、今回の福島第一原発事故のメカニズムなどについてわかりやすく説明し、絶対安全とは言い切れない現在の原子力利用を批判した。また福島県のテレビ局・福島放送に勤務する民放労連東北地連書記長の寺尾克彦氏は、事故発生以来の地元民放各局の取材対応などについて紹介。事故が収束していないために福島は「復興」に至っていないこと

を強調した。

防災・危機管理ジャーナリストの渡辺実氏は、自身が日本テレビの震災特番に3日間詰め詰めで協力した体験も含めて論じた。テレビ局が東京電力などの記者会見をそのまま放送していたことなどについて、専門用語の解説などがスタジオのキャスターらによってフォローされていない実態を挙げて、メディアの対応の不十分さ、不勉強さに注文をつけた。

大震災の中で迎えた憲法記念日。今年には唐突に、「憲法を含め、国家緊急事態に関する不備の是正が喫緊の課題」(産経)だの「緊急事態基本法」を制定してはどうか(読売)などという議論が登場している。産経はさらに「自衛隊は国民の軍隊」明記を」と強調、読売は「近い将来の憲法改正が容易ではないことを考えれば」と、明文改憲が事実上困難だ

自由主義的な政策の帰結として関連があり、人々はその感じ取っている」と桜井氏は指摘する。

桜井氏は、マスメディア報道がなぜ当局発表にものついた報道をするかについて、自社の報道がきつかけでパニックになる事態を、メディア企業が何よりも恐れているから、と説明した。

荒川さんは、放射能汚染の危険性について語り、とくに小学校の放射線規制値の緩和を批判した。

後半は会場からの質疑をもとに討論した。

中継スタッフとともに参加していた岩上さんも発言。中継を手伝う若い人はボランティアであり、官庁や東電などの記者会見なども中継に行く。その現場で、岩上氏

視角

の認識の下で、「緊急事態時に、国が万全の措置を講じる責務を持ち経済秩序の維持や公共の福祉確保のために、国民の権利を一時的に制約できるようにすること」を主張している。自民党もこれに乗るし、読売の座談会には民主党の前原誠司氏も登場、「基本的人権の尊重は書いてあるの

に、国家の自然的権利でも危険な場所からの退避にしても、要は、「自分が全責任を取ってやる。あとで補償をするのも当然だ。だから指示に従ってくれ」と明確に表明する姿勢と責任感、それを受け取る国民の信頼なのではないか。大震災の中でも、いや、震災の中だからこそ、「健康で文化的な生活」を保障した憲法を生かし、内容を充実させることこそ求められている。

「E(抜粋)と荒川氏制作の「ドキュメント チェルノブイリ」。後者はチェルノブイリ事故の後、石棺を作ってそれを処理するまでの過程を取材した映像に、原子力資料室を主宰した故・高木仁三郎さんが解説をつけたものだ。作業員の過酷で危険な労働が撮影されている貴重な映像だ。

加えて3・27の東電前の抗議行動とデモの映像も映写した。

今回の集会は、横浜市民放送局ポトサイドステーションによるUstream中継とジャーナリスト岩上安身氏によるUstream中継も行われた。中継は著作権の関係で、「ZONE」の視聴後から行われた。

「さすがJCJ、仕事が速い！」タイムリーな企画、内容もよい——東日本大震災・原発事故の最中にJCJが企画した緊急連続講演会の記録冊子「東電福島第一原発事故を考える」が好評を博しています。

ベテラン科学ジャーナリスト、気骨ある原子力研究者の講演内容は、多くの読者を刺激したよう

講演会の参加者、会員、機関紙読者のみならず、各方面から予約注文が殺到し、「想定外？」の反響に事務局はパニック状態。緊急出版に伴う印刷ミスの手直しなどで、早くから予約された方々

に大変な迷惑をかけています。この場を借りてお詫びいたします。

全国紙、地方紙、テレビ局などメディア各社から相次ぎ注文が入ったほか、記者・編集者個人からも多数注文を受けています。「これまでの原発報道のままでいいのかわ？」との自問を反映しているのでは、と思われま

なお、初回の冊子はまだ残部がありますので、事務局へFAX、メールでお申し込みください。

1冊500円、送料別です。

(事務局)

「原発災害JCJ緊急連続講演会」第5回目を6月6日に開催する。NHK元解説委員の吉村秀實氏を講師に、浜岡原発はなぜ全炉停止する必要があったのか、地震・津波と原発事故などについて考える。

▼テーマ「なぜ浜岡原発・全炉停止か……巨大地震津波と原発震災」

▼講師「ジャーナリストの吉村秀實さん(元NHK解説委員)」

▼日時「6月6日(月)午後6時半から」

▼会場「東京の日本橋公会堂集会所(地下鉄・水天宮前駅6番出口)」

▼資料代「500円」

5回目講師は
吉村秀實氏
緊急連続講演会
6月6日(月)に

対テロ戦争の現場に肉迫

毎日新聞 大治朋子記者語る

JCJ新聞部会例会



09年春には1カ月間アフガンで従軍取材をした。現地での米軍はオープンで取材は自由だった。

をした時のビデオ映像も交え、米軍や戦場の空気が伝わる講演だった。

JCJ新聞部会は5月10日、2010年度のポーン・上田記念国際記者賞を受賞した毎日新聞外信部の大治朋子記者をゲストに迎え、東京で例会を開いた。

大治記者は昨年秋まで4年間、北米総局特派員を務め米軍取材した。例会のテーマは「米軍、米メディア、米大統領選。ワシントン特派員として見てきたこと」。アフガンで米軍に従軍取材

る。わずか10ドルの爆弾で多大なダメージを受けることがわかった。兵士は疲弊している。米兵の自殺率はベトナム戦争時を超えて過去最悪だ。米国の人口の1%にあたる兵士が繰り返し戦場に行くことから「1%の戦争」といわれる。戦死を極力減らすためオバマ政権は無人戦闘機を多用するが、民間人犠牲者が確実に増えた。

戦闘よりも現地の部族のボスたちと対話することが軍人の重要な任務となっている。だが協力関係は十分とはいえない。米国のメディアについては、経営の悪化する既存メディアがいかにかジャーナリズムを守ろうとしているかを探り、09年11月から長期連載をした。

09年春には1カ月間アフガンで従軍取材をした。現地での米軍はオープンで取材は自由だった。批判的な見地からであろうと、事実を見て書いてほしいと広報担当者。それが米軍の信頼につながるといふ考え方だった。基地内の病院には口ケツト弾で全身負傷した8歳の少年が横たわる。快復したら医療設備のない村に帰すことになると涙を流して語る院長。兵士を守るハイテク機材には1億円以上するものも。対するタリバンやアルカイダの攻撃は一つ10ドルで作れるという仕掛け爆弾。取材中、大治記者が乗った車両も爆弾を踏んだ。頑丈な車両で乗員はみな無事だったが基地へ戻るのに平日かか

5.3憲法の集い

『抑止力の虚構』を暴く

浅井基文氏、神奈川で講演

5月3日、横浜駅西口・高島屋前の「九条かながわの会」リトリート。弁護士、ジャーナリスト、教師たちが交互に「教育の場、職場、生活の場で憲法が踏みならされている」「原発安全神話は崩壊した」「主要メディアは神話づくりに加担して

収入の8割を広告に頼る米国のメディアは1400社あったが、生き残るのは半分といわれる。コストのかかる海外報道と調査報道は減り、データや情報の再構築による分析報道が増加している。フェイスブックなどネット技術が進む中、ウェブで有料化に耐える付加価値をいかにつけるか。タイム社はすでにiPadで動画や双方向性のある報道を実現している。大統領選を取材して感じたのは、大統領を決めるのは「経済」だということ。人口に占める割合が高いのは、ブルーカラー

で中道右派の人々。その動向が力骨を握る。現状のままではオバマ大統領は厳しい状況だ。国防総省にはかり目を向けがちな日本メディアのなかで戦場にも果敢に挑む大治記者。みなぎる記者魂をひしひしと感じた。植田晃弘

機関誌復刊で活性化
会員6人増やす
11年度
広島支部総会

広島支部は4月29日、2011年度総会を開き、機関誌復刊など取り組みの活性化で10年度は6人の新規加入があったことを報告。①知る権利にこたえるジャーナリズムの再生②在広マスコミ・文化関係者、市民運動や労組等との連携を強める③新年度の活動方針を決めた。

総会後、広島大学名誉教授・葉佐井博巳さんから「福島原発事故と放射線の影響」について市民を交えて学んだ。葉佐井さんは放射線の特徴について①五感に感じない②「毒性」は消せない③などを挙げて解説し、原発の問題点を「無知が最も恐ろしい」と話した。(広島支部)

リレー時評



JCJ代表委員 隅井孝雄

東日本大震災を機にラジオが見直されている。

東北3県のNHKラジオ、民放ラジオ(AM、FM)各局は不眠不休で安否情報・特番を報じた。普段なじみのパーソナリティーに対する信頼感・安心感も多く被災者の安全につながる心の安らぎをもたらすものとなった。これらのラジオ局の中には、被災

地に的を絞った「災害放送局」を運営し、ユーストリームで同時放送するなど、活躍を続けた。注目されるのは市町村単位で放送を出しているコミュニティFM局の存在だった。ラジオ石巻は局舎が被害を受けてシステムダウン、非常用バッテリーにたよ

大震災が教える情報伝達の原点

村単位で放送を出しているコミュニティFM局の存在だった。ラジオ石巻は局舎が被害を受けてシステムダウン、非常用バッテリーにたよ

て放送を続けた。岩手県宮古市ではコミュニティFMの開設備中だったが、津波の後3月20日に急遽災害FM局として電波を出し、市民の目となり耳となった。仙台では外国人の問い合わせの殺到した仙台国際交流協会が急遽「Daiefm」を開設、英語、韓国語、中国語などでライブラインの情報を伝えた。災害地のラジオがユーストリームで同時放送し、またブログ

でラジオとインターネットを橋渡しするなどの活躍ぶりも目立った。コミュニティFMは出力が20ワットに制限されているが、臨時災害コミュニティFMに対して総務省が100ワットを認可したのは、被災地にとつての朗報だったといえよう。

普段ラジオを聞く習慣が少なくなっていたことも手伝ってラジオ受信機の数が増えれば手軽な受信機で情報が入って

日本ではラジオが衰退しているといわれてきた。しかし空中波を受信しさえすれば手軽な受信機で情報が入って

石巻日日の手書き新聞も世界に注目された。原点に立ち返ってみる必要を今回の震災は我々に教えたのではない。

石巻日日の手書き新聞も世界に注目された。原点に立ち返ってみる必要を今回の震災は我々に教えたのではない。

●マウスの社会探訪●

ネットと衛星放送のコラボ始まる

@市民からの情報発信・受信の有力なメディアとしてネットの利用度は高まる一方である。しかし、ツイッターのような短い情報は別として、不特定多数への一斉伝達には向かない。そうした欠点を補うものとしてマス媒体との連携(コラボ)が、このほど実現の運びになった。放送史上、初めてである。

@Our Planet TVは市民メディアとして、社会的に意義のあるテーマを意欲的に制作してネット発信してきたが、その番組の一つ「Content Act」をCS放送「朝日ニュースター」のチャンネルで放送する。その予告として、文科省が福島県内の子ども被曝許容量を年間20ミリシーベルトに引き上げた問題をテーマにした番組「子どもを襲う放射線の不安～学童疎開は必要か」を「朝日ニュースター」で全国放送した。朝日ニュースターは5,550,370世帯が受信可能である。メディア批判や、独自のニュース番組充実が必要との指摘もある。市民のニーズに応える番組の登場は、変革への寄与も期待される。

米国には、その意思も能力もあるが、北朝鮮や中国にはどちらかが揃っていない。つまり、「北朝鮮脅威論」「中国脅威論」はいずれも虚構であり、その虚構に基づく

「米軍普天間基地・米海兵隊の抑止力」も根拠のないものと断じる。浅井氏の講演を聞き、「原発安全神話も「日

米安保体制「日米同盟」もまさに虚構の上に築かれたものだ、と得心した。阿部裕

大野晃の スポーツコラム

3・11大震災から2カ月がすぎ、ようやく被災地に復興の機運が高まっているが、草の根の住民スポーツも復活してきているようだ。

草の根の自主的復興進む

新日本スポーツ連盟に合わせ、できるだけ早く取り組み始めている。マスメディアは、トップと生活再建の弾みに、競技者の被災地支援の動きやトップチームなどの

再開に関しては積極的に報道しているが、住民スポーツには関心を示さない。しかし草の根の動きを追わなくては地域スポーツ復興の道筋が見えてこない。ファンとして

再開に関しては積極的に報道している。山口県は10月開催の地元国体を「大震災復興に集中するために5年後の国体開催を見送ることを呼びかけた。戦後いち早く競技関係者の手で開催された国体の原点帰りが特徴である。

なっている。山口県は10月開催の地元国体を「大震災復興に集中するために5年後の国体開催を見送ることを呼びかけた。戦後いち早く競技関係者の手で開催された国体の原点帰りが特徴である。

出た。「勝ち負けより、競技することの方がうれしい」と本音で語る人々が増えている。その全体をマスメディアは、しっかりとらえ直す必要がある。

ACジャパンの前身は「関西公共広告機構」。当時の佐治敬三・サントリー社長が発起人で、アメリカACを見習い設立しました。当初の活動は近畿地方が中心です。

と番組の間に入るスポーツCMと番組提供社用のタイムCMがあります。企業が自粛を止めて本来のCMが流れ出したからです。

と番組の間に入るスポーツCMと番組提供社用のタイムCMがあります。企業が自粛を止めて本来のCMが流れ出したからです。

と番組の間に入るスポーツCMと番組提供社用のタイムCMがあります。企業が自粛を止めて本来のCMが流れ出したからです。

出版部会

教科書50万冊分流される

電子出版の広がり、課題も

4月16日、出版部会は文化通信社の星野渉さんに「2011年出版界定ポイント」として講演をして頂きました。講演の要旨です。

昨年6月末に「デジタル・ネットワーク社会における出版物の利活用の推進に関する懇談会(三省エッセ)」が報告書を出しました。この内容から、昨年は「電子出版元年」にふさわしい年になりました。

出版契約の円滑化、総務省の取り組みと相まっての書店のモデルが検討されています。

電子出版市場は広がる一方ですが、課題も多いです。『もじドラ』は11万12万がダウンロードされたが、実売印税での手作業や、ISBNコードは、保存・管理、セキュリティは、などの問題

出版契約の円滑化、総務省の取り組みと相まっての書店のモデルが検討されています。

出版契約の円滑化、総務省の取り組みと相まっての書店のモデルが検討されています。

出版契約の円滑化、総務省の取り組みと相まっての書店のモデルが検討されています。

出版契約の円滑化、総務省の取り組みと相まっての書店のモデルが検討されています。

出版契約の円滑化、総務省の取り組みと相まっての書店のモデルが検討されています。

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災

東日本大震災の被害内容はまだつかめておりません。出版業界では対策本部を作って対応しています。相当な被害を受けた書店が150軒、特に教科書は50万冊が一瞬のうちには流されました。被災



星野渉氏

普天間基地の固定化は絶対に許さない

訪沖の北沢防衛相へ抗議行動

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと

5月4日、ウィキリークスが、普天間基地移設問題をめぐる日米間の裏取引、米政府と内通する外務官僚の実態などを暴露する米公電を公開。沖縄地元紙は連日、その内容を詳しく報道している。私たち県民は驚くと



連載

7日午後、真夏のような陽射しが照りつける沖縄県庁入口周辺の歩道を埋めた県民らが、汗だくになりながら「北沢大臣は県民の財産!県庁に入らな!」と声を上げる。過

7日午後、真夏のような陽射しが照りつける沖縄県庁入口周辺の歩道を埋めた県民らが、汗だくになりながら「北沢大臣は県民の財産!県庁に入らな!」と声を上げる。過

ウィキリークスが暴いたグアム移転費用 税金の使途を欺く裏取引

共同通信外報部 石山永一郎

深い日米関係の闇

外交交渉の過程において「密約」が許されるケースというのは、はたしてあるのだろうか。国民に事実を伏せ、2国間、もしくは多国間で秘密合意をしてもいいかどうかという問題だ。

日米安保条約改定時の核持ち込みなど、四つの密約問題を調査した昨年3月の有識者委員会報告書は、外交には「ある期間、ある程度の秘密性はつきものである」と一定の秘密を認めている。

そのうえで、秘密にしたことの妥当性は当時の国際環境や国益に照らして判断すべきだという見解を示した。たとえば「東西対立が続く冷戦時代においてはやむをえない」とも述べた。

日米関係では今月初めに明らかになった米公電の内容が、とりわけ衝撃的だった。

公電は2006年4月の日米交渉で、沖縄の米海兵隊のグアム移転費用の数字が日本向けに意図的に最大化したものだ」とも公電は伝えている。

日本側も、この米側の数字の操作を承知しているらしい。

暴露された内容は、後世の歴史の検証に堪え得る密約とは到底思えない。密約と呼ぶよりも、税金の使途を国民に欺いた犯罪的裏取引ではないか。

もともとグアム移転費用は、米軍住宅建設費の見積り額が現地の実情にそぐわないなど疑惑が多かった。

在日米軍基地をめぐる日米交渉の闇は深い。菅直人首相は「合法的でない情報の発表」だとしてコメントを拒否したが、暴露された以上、直ちに事実関係を調査し、政府見解を明らかにすべきだ。

「ニッポンがんばれ」のCMが目立つ中、憲法メディアフォーラム開設6周年記念シンポジウム「マスメディアとナショナリズム」が、3月30日、文京シビックセンター・スカイホールで開かれた。

小森陽一氏(東大教授)が基調報告をした。

小森氏は、尖閣問題はアメリカの仕掛けによって、日本のナショナリズムが呼び起こされた」と指摘した。

小森氏は冷戦終結後の世界で、様々なエスニックグループの重要性が増し、それはネットの普及など、メディアの変化と並行していると述べた。

後半はパネル討論。まず在日特権を許さない市民の会(在特会)が朝鮮学校に押し掛けた映像を映写した。

重松清の原作を脚色した舞台である。脚色・演出：土屋理敏。

1977年の秋の夜、その年打ち上げられた惑星探査機ボイジャーを見つけたのは、星座・カシオペアだった。4人はその丘を「カシオペアの丘」と名付け、いつかここに遊園地を造ろうと誓い合っていた……。

それから幾星霜……。その丘に巨大な「北都観音像」が建ち、遊園地も出来上がった。園長をしているのは、車椅子に乗ったトシ(シュンはその責任が自分にあると考えていた)、彼はミッチョと結婚していたが、そのミッチョとシュンが、学生時代、東京で同棲して



ナショナリズムをめぐる集会 在特会に根強い反エリート意識

在特会の取材を続けるジャーナリスト安田浩一氏は、在特会は右翼ではなく、国家を背景に自分に誇りを持つとする自己承認運動という。

反エリート意識の強い在特会はマスコミへの反感も強く、新聞やテレビは在日に支配されていると主張する。

三重短期大学助教授の楠本孝氏は、入国管理制

度が変わった理由を説明した。在特会が不法入国として退去を命じられたカルデロン一家の子どもにまで嫌がらせをした時代的な背景として、オウム信者の子どもたちの就学拒否に対し、社会が批判しなかったことが影響していると楠本氏は指摘した。

在特会が社会のメインストリームになるかという質問に、安田氏は、主流になることはないが、在特会的なものではなくならないと、排外主義的な気分が日本社会に拡がっていることを指摘した。

保坂義久

ビンラディン殺害は国際法違反

オバマ大統領は米海軍特殊部隊の襲撃作戦でウサマ・ビンラディンを殺害したことについて「正義がなされた」と誇らしげに語った。

9・11同時多発テロ事件の「仇を討った」とばかりに米国民の多くは大喜び、大統領の支持率

は10%以上も跳ね上がった。

しかしビンラディンを逮捕できず、いきなり権威であると同時に「良心を殺してしまったやり方」の裁判官ともいえるべき存在だから、その批判は重く国際的に広がっている。

第2次大戦後、ナチス府の当初の説明は「武器裁判で検察官を務めた国生け捕りに抵抗しようとしたから殺した」に変わった。

当時現場にいた12歳の娘は、「父はいったん

拘束されたが、その後殺害された」とパキスタン治安当局に証言したと、パキスタンの新聞ニュース紙は報じている。

ビンラディンが武器を持って抵抗したから殺害した」という米政府の初めから容疑者の「身柄拘束されたが、その後殺害された」とパキスタン治安当局に証言したと、パキスタンの新聞ニュース紙は報じている。

ビンラディンが武器を持って抵抗したから殺害した」という米政府の初めから容疑者の「身柄拘束されたが、その後殺害された」とパキスタン治安当局に証言したと、パキスタンの新聞ニュース紙は報じている。

演劇集団 円公演 『カシオペアの丘で』

人には、許せないことと、許してほしいこととがある……

演劇回り舞台

会が呼び掛けられた。しかしなぜかシュンは、その遊園地に足を踏み入れようとはしなかった……その謎解きがストーリー

4人は最後にカシオペアの丘に集う。すでに認知症となって車椅子に乗っている千太郎を含め、供養のために全員で観音の胎内を登る……。

(4月15〜28日 スタージ円にて上演)

安住邦男



撮影：宮内 勝



英国国教会のカンタを裁いたニールンベルクは持っているが、裁判で検察官を務めた国生け捕りに抵抗しようとしたから殺した」に変わった。

当時現場にいた12歳の娘は、「父はいったん

拘束されたが、その後殺害された」とパキスタン治安当局に証言したと、パキスタンの新聞ニュース紙は報じている。

ビンラディンが武器を持って抵抗したから殺害した」という米政府の初めから容疑者の「身柄拘束されたが、その後殺害された」とパキスタン治安当局に証言したと、パキスタンの新聞ニュース紙は報じている。

自分の考えでエネルギー政策を選択するとき

福島原発事故があつてからも依然として「原発VS自然エネルギー」という二項対立的な構図で原子力を見ていた人々が多い。しかし、見るべきはエネルギー政策全体である。私は自分の作品で主張してきた。



鎌仲ひとみ (映像作家)

原発と地震を知るために——私のいちおし

巨大地震を契機にして福島第一発電所が炉心溶融事故が発生した。事故に至ったのは、原子力技術の潜在的危険性とともにも、技術の成熟度や、地震多発という自然条件を無視して、開発を推進した人間の側にも大きな原因があった。絶版になった本も含め紹介する。

日本での原子力開発を総合的にまとめたものとして、中嶋篤之助・安齋育郎『原子力を考える』(1983年、新日本新書)、983年、新日本新書)、館野淳『廃炉時代が始まった』(2000年、朝日新聞社)がある。アメリカでの初期の開発や国際情勢を述べたものに、川上弘一『原子力の光と影』(1994年、リベラ出版)がある。陽一郎編『地震と原子力発電』(1997年、新日本出版社)、核燃料サイクルについては、市川富士夫・館野淳『地球をまわる放射能』(1986年、大月書店)、日本科学者会議編『Q&Aアルトニウム』(1994年、リベラ出版)、館野淳、野口邦和、吉田康彦『どうするアルトニウム』(2007年、リベラ出版)がある。



館野 淳 (元日本原子力研究所)



塩谷喜雄 (科学ジャーナリスト)

東日本大震災と、東京電力福島第一原子力発電所の事故は、日本社会の基底をむしばむ神話と幻想の害毒を白日のもとに曝した。

原発安全神話の持つ「科学的な装い」を徹底的にはぎとって見せるのが、小出裕章『隠される原子力 核の真実—原子力の専門家が見る—』(創史社)だ。事故前の昨年末の発行だが、原発が抱える技術体系としてのリスクとエネルギーとしての質の悪さを、明快に描き出している。気になるのは、地球温暖化について、二酸化炭素原因説をさしたる科学的根拠もなく論難している点で、温暖化が原発



地震予知は超未来技術—安易な過信は禁物

推進の口実に使われているだけに、坊主憎けりや袈裟まで……ということなのだろうか。

地震国日本が、世界の学界では占いの一種としてかみられていない地震の直前予知を、大規模地震対策特別措置法(大震法)という法律で、防災の基に据えている愚を、諄々と説いて、読者にやさしく震災の覚悟を迫るのが島村英紀『巨大地震はなぜ起きる』(花伝社)だ。著者は、元国立極地研究所長。予知幻想をふりまいている東大地震研を中心とする日本の地震学者が捨てた「地球科学的良心」を維持している数少ない人物で、現在の地震研究の到達点を、わかりやすく説いてゆく。地下深い場所できらる破壊現象—地震の予測に関する、日時・場所・規模を



ドキュメンタリー映画『六ヶ所村ラプソディ』は原発が怖いとか、危険だとかいっているが、原子力のもと、核を

短歌 現代の窓 評小石雅夫

新聞投稿歌より(朝日・毎日歌壇)

一面の泥と瓦礫の廃墟には沈黙だけが佇みお
り 4/4朝日歌壇 二宮 正博

東北の棺の並ぶ体育館卒業生が立つはずの場所
4/10朝日歌壇 中山真彩子

生きてゆかねばならぬから原発の爆発の日も米
を研ぎおろし 4/10朝日歌壇 美原 凍子

波というよりも海ごと体当たりしてきたような
津波でありし 4/17毎日歌壇 まえだいっき

『ネット時代のパブリック・アクセス』
金山勉・津田正夫編 (世界思想社2000円)

メディアに人々が参加して発信することを指す「パブリック・アクセス」の環境に、大変動が起きている。インターネットの普及だ。まさに市民だれもが発信をすることが、ネットにより可能になりつつある。

この新しい条件のもとで、パブリック・アクセスの精神をどう生かすべきか。それをさまざまな角度から探る論考を編んだ本だ。

大きく四つのパートに分かれる。市民参加の拡大を跡付ける第一部では、京都の「コミュニティ老人クラブ、カーネギーで歌う」小島 修著 (岩波書店1800円)

大舞台の緊張と満場の聴衆の興奮。それが一体となつて、読者を心地よい臨場感に酔わせる。素晴らしいアンサンブルだ。

「カーネギーホールで歌おう」といふこともないことを企画し、見事に成し遂げた、とんでもない人々の物語である。

文中、しばしば奇跡の2文字が現れる。そうだろうか。伝統ある東北大が、いま東日本大震災の被災地に吹きわたっている。「歌声よ、おこれ」(宮本百合子)と、私もエールを送りたい。

吉川嘉治(日経O.B)

いま、各新聞の投稿歌欄には、東日本大震災、福島原子力発電所の事故をうたった作品が次々に寄せられ発表されている。なかでも朝日歌壇が最も多く、4月10日付で4人の選者四十首のうち三十九首、4月18日付では四十首のうち三十八首と入選歌のほとんどがそうであった。被災地であると否とを問わず、全国民がこれほど強い注目と関心を寄せている大出来事なのである。

一首目は、もはや見渡す限りに何一つ残らない廃墟は、恐ろしいばかりに深閑とした光景の広がりにある。「沈黙だけが佇みおろし」という下句が、すさまじい荒寥感を胸迫らせてくる。

二首目は、避難所ならぬ犠牲者の遺体収容所としても使用されている学校体育館。上句と下句とが表わす生と死との対比が現実の無惨を訴える。

三首目は、何があっても人間であり生きてゆかなければいけない。そのためのもっとも素朴な営為としての炊飯。しかし、そうした日常を脅かし侵しける「原発の爆発」への恐れと不安、さらにそれへの怒りなどをなげきまぜにした感情をおさえながら、精いっぱいに出している。

四首目は、今回のマグニチュード9.0によって引き起こされた大津波を、「波というよりも海ごと体当たりしてきたよつ」と捉えた。あれこれのほかの言葉以上に、感覚的具體性として実感させる表現となっている。(「新日本歌人」編集長)



「天安門」以後の 亡命者の苦衷を尋ねた

中国批判の記録『亡命』

世界第2の経済大国となつた中国。貧富の差も、言論弾圧も置き去りにしたまま、太平の世を享受している。天安門事件(1989)で自由を叫んだ人たちは、根こそぎ逮捕

され、免れた者も海外に亡命し、20年以上が経過した。人権問題の解決を求める国際世論も無視し、高行健のノーベル文学賞受賞にも異議を唱えたのが、現中国共産党政

識人約20人を、監督自らが海外に訪ね、その苦衷の生活と祖国批判を記録し、うち14人が画面に登場する。



『霊山』でノーベル文学賞を受賞した、パリ亡命の高行健は、83年の『バス・ストップ』上梓の時から、文革は復活して

められないと、文革のきつかけになり、弾圧で作者が自殺した書物『海瑞罷官』同一視された。政治評論家の胡平は、アメリカで中国語雑誌『北京の春』を発行し続け、亡命中国人の言論の場を提供し続け、歴史学者王丹は、ハーバード大学で博士号をとった。

この映画は、報道されない亡命中国人の生活と意見が描かれた、貴重な記録である。(渋谷シアター・イメージフォーラムで上映中。全国順次) 木寺清美

◇地方紙の賠償責任否定 通信社と一体性 共同通信が配信した記事が名誉棄損で訴えられた場合、掲載した地方紙に賠償責任があるかどうか争われた訴訟の上告審判決で、最高裁第一小法廷は28日、「通信社と新聞社に一体性が認められる場合は、通信社に責任がなければ新聞社にも責任がない」との初判断を示した。(東京)4月29日付ほか

◇日本ペンクラブ、不適切会計 日本ペンクラブが昨年9月に都内で開いた「国際ペン」東京大会の決算報告を巡り、本来の会計とは別の「簿外口座」や「簿外現金」が存在するなど不適切な会計処理があったとして、顧問の公認会計士から「不明朗な資金移動で、さまざまな管理と言わざるを得ない」と指摘されていることがわかった。ペ

た。これにより、予算へ入って61億円の赤字を見て、日向総局長は「八百長問題発覚後の、再生に向けた取り組みが進行中であるし、今回は本場所ではない」と説明。「視聴者のみなさんが納得できる状況になることが放送の前提だ」と述べた。通常のニュース番組などでは取り上げるが、ダイジエスト版の放送はしないという。(朝日)4月21日付ほか

新聞

憲法記念日の新聞報道は風物詩か

今年(西暦)が5月2日 朝日(西部)が5月2日 朝刊1面トップで「生存権を、今こそ大震災通せない中で迎えた。3・11以後、新聞各紙に「憲法を踏まえた記事」を見

生存権、2項・国の社会的使命)、3面トップで関連記事「被災者の権利か『公共の福祉』か」とつたい、13条(個人の

社説では「公と私をどうつなぐか」の見出しで「憲法を踏まえた議論を避け通れない」と、憲法を踏まえていなかったことを反省するよう内容。

者、現地派遣者、市民各5人に「憲法の理念に照らし、被災地の現状をどう感じるか」を聞いた。1日遅れ4日社説で取り上げた。「一人ひとりを大事にしてこそ(西日

「大震災と憲法」を取り上げた議員はいない。新聞だけが「憲法記念日」があるから重視しているといわなければに記事を書いたが、取り上げないよりのいいのか。私には、憲法記念日でも「風物詩」として見ているのかと思われて仕方がない。

お詫び 先月号の本欄執筆者は、山田明氏でした。訂正いたします。

白垣昭男 命拾いした被災者たちのみきれなかったことを悔やみ、「地震、津波など自然の力は、我々の知識をはるかに上回ることがある」と謙虚に反省する言葉に共感する。

また、今回の津波が巨大化し被害をもたらしたメカニズムについて、大

日本史教科書の検定にも影響を与えた「沖繩ノートル」訴訟。勝訴したノートル賞作家の大江健三郎さん(76)は22日の記者会見で、「自分が一生をかけてきた仕事。力強い励ましになる。子どもたちに読んでもらいたい」と語った。(朝日)4月23日付ほか

月間マスコミ批評

東日本大震災から2カ月。想像を超えた規模の震災について、対応する手だての糸口さえ我々は見つけられずにいる。5月7日のNHKスペシャル『巨大津波、いのちをどう守るのか』では、この難題に真正面から向き合おうとした。

番組はこれらの映像を中心に、専門家による津波のメカニズムのシミュレーションと併せて、自然の猛威から身を守る知恵を探った。

過去の津波の経験から世界一の堤防を作った岩手県釜石では、地震から津波までの人々の思考と

ず、その理由として防波堤を越える津波は来ないと思っていた事実は教訓的だ。

番組の圧巻は2階建ての自宅の屋上に這い上がった宮城県

仙台平野で過去に起きた津波被害を調査している東北大学の教授が、平安時代の地層から津波の痕跡を発見しながら、それを基にして巨大津波の発

「大震災と憲法」を取り上げた議員はいない。新聞だけが「憲法記念日」があるから重視しているといわなければに記事を書いたが、取り上げないよりのいいのか。私には、憲法記念日でも「風物詩」として見ているのかと思われて仕方がない。

お詫び 先月号の本欄執筆者は、山田明氏でした。訂正いたします。

また、今回の津波が巨大化し被害をもたらしたメカニズムについて、大

NHKは26日、経営委員会に対し、2010年度の受信料収納額が前年度比147億6000万円増の6531億円と過去最高

番組冒頭の、視聴者や公的機関などから寄せられた大津波のすさまじい姿と破壊力を目にして、

番組の圧巻は2階建ての自宅の屋上に這い上がった宮城県

仙台平野で過去に起きた津波被害を調査している東北大学の教授が、平安時代の地層から津波の痕跡を発見しながら、それを基にして巨大津波の発

「大震災と憲法」を取り上げた議員はいない。新聞だけが「憲法記念日」があるから重視しているといわなければに記事を書いたが、取り上げないよりのいいのか。私には、憲法記念日でも「風物詩」として見ているのかと思われて仕方がない。

お詫び 先月号の本欄執筆者は、山田明氏でした。訂正いたします。

また、今回の津波が巨大化し被害をもたらしたメカニズムについて、大

NHKは26日、経営委員会に対し、2010年度の受信料収納額が前年度比147億6000万円増の6531億円と過去最高

NHKは26日、経営委員会に対し、2010年度の受信料収納額が前年度比147億6000万円増の6531億円と過去最高

NHKは26日、経営委員会に対し、2010年度の受信料収納額が前年度比147億6000万円増の6531億円と過去最高

NHKは26日、経営委員会に対し、2010年度の受信料収納額が前年度比147億6000万円増の6531億円と過去最高



降、少なくとも二十数人が拘束され、うち7人は今もなお所在が不明のまま。外国人に協力したリビア人記者への弾圧も起きている。また、2人の外国人記者が戦闘に巻き込まれて死亡した。行方が分からなくなっているのは、カタールの衛星放送アルジャジーラの記者や米英をはじめとする欧米国籍の記者ら。反体制派「国民評議会」によると、不明になっているのは反体制派拠点のベンガジから西方の前線に向かった記者らが大半とみられるという。(朝日)4月21日付ほか

その惨状に言葉を失う

「取材力と想像力」— 研ぎ澄ます必要を痛感



三陸鉄道は大津波で甚大な被害。この先の海に向かう鉄路は無くなっている

「テレビや新聞で見るより現地はひどい」といわれて気になっていた折り、岩手県内の大学後輩らの呼びかけでGWの4日間、大船渡市と陸前高田市でのボランティア行動に車で参加してきた。個人レベルのボランティアは受け付けていないので、労働団体の一員扱いにしてもらい、社会福祉協議会に登録、様々な作業に従事し、被災の現場に立つことで新聞・テレビでは不可能な臭いをかぐこともでき、これまでの価値観や人生観が変化する得がたい体験となった。

とにかく、人手が足りない

太平洋の海岸線へ向かう道中、陸前高田市の郊外から風景が砂色の単色の世界に一変。目の前に広がる被災地の視界は、表現する言葉がすぐには出てこない。あわてて車を止めて踏み切りに立つものの、その先から鉄路が無い。鉄橋はねじれて原型をとどめていない。最初の作業は、大船渡市の海岸に集められた数千台の車のチェック。持

ち主の身寄りが探す際にわかり易いように、百台ほどのブロックに区切つて車種や色、ナンバーなどのデータ作り。「X」印があるのは車内に人が発見された車両だ。魚の腐臭は、活性炭入りマスクでも防げない。午後は、港の倉庫群や、市場を乗り越えて押し寄せた津波でめちゃくちゃになった河川敷を延々と清掃。個人宅の片付け作業では、床下や地面のヘドロが深刻。浄化槽なので、衛生面も心配。梅雨前に



校舎は破壊されたが、生徒たちは3カ月前に完成の非常通路から高台に逃げて無事だった大船渡市の越喜来（おきらい）小学校

東日本大震災・津波の被災現場へ

GWにボランティア参加

8畳に8人が寝ているお宅もあるとか。

公的避難所には物資のダンボールが積み上がった。親類・知人宅への避難者には物資がなかなか届かない現実も知った。2〜3割の自治体職員が行方不明では、手配できる体制の支援がないとだめだ。

壊滅の実相を現場で体感

陸前高田市街地は壊滅状態。家族連れが、土台だけ残った場所です動かない。屋上に逃げた患



大船渡市のボランティアセンターでコーヒーをふるまう、名古屋から車で駆けつけた喫茶店経営の家族

者や職員だけが助かったという県立高田病院の4階建ての建物の下に身を置くと、その大きさから津波の巨大さや、力尽きて患者と共に流された職員のことと思われ、唇を噛みしめるしかない。帰路の途中の公民館に物資を届ける作業を引き受け、厳しい実態を知った。切望されている調味料では、待っている人が30人ならマヨネーズとケチャップと合わせて30本ではモメる。避難してき

地域紙の健闘、海外で賞賛

「壁新聞」を米・報道博物館に展示

東日本大震災で被災した三陸地方の新聞社の健闘が、世界で注目を集めた。

被災して輪転機が使用不能になった宮城県「石巻日日新聞」(1912年創刊、夕刊1万4千部)では、震災翌日から壁新聞を発行し、避難所などに張り出した。

社員は停電の中、油性ペンで新聞を作り、電気が復旧するまで6日間、手書きの新聞を作り続けたという。

12日付の号外では、この手書き新聞のことが、米紙の報道によつて知られるところとなり、アメリカ・ワシントン・ニューヨークの「ニューズ」で、4月12日から展示された。

また、岩手県大船渡市の「東海新報」の公式サイトは、市内のインターネット網が途絶え、更新不能になつて、4月12日から展示された。

また、岩手県大船渡市の「東海新報」の公式サイトは、市内のインターネット網が途絶え、更新不能になつて、4月12日から展示された。

シャッターを押しときが

時代を切り取った時

J・C・J写真クラブ(藤崎敬会長以下9人、2008年6月発足)の初めての写真展が東京・四谷のポルトレトギャラリー

J・C・J写真クラブ(藤崎敬会長以下9人、2008年6月発足)の初めての写真展が東京・四谷のポルトレトギャラリー

J・C・J写真クラブ(藤崎敬会長以下9人、2008年6月発足)の初めての写真展が東京・四谷のポルトレトギャラリー

J・C・J写真クラブ(藤崎敬会長以下9人、2008年6月発足)の初めての写真展が東京・四谷のポルトレトギャラリー

J・C・J写真クラブ(藤崎敬会長以下9人、2008年6月発足)の初めての写真展が東京・四谷のポルトレトギャラリー

J・C・J写真クラブ(藤崎敬会長以下9人、2008年6月発足)の初めての写真展が東京・四谷のポルトレトギャラリー



会場には一般の人も訪れた

会場には一般の人も訪れた。来場者は会場「近所の方や民放労連の方のほかに英伸三さん、丹野章さん、それに特別出品の中村裕郎さんなども駆けつけてくれた。

林豊